



清藤真司

2月号からシリーズでお伝えしてきた「事前復興の観点から防災を考える」の最終回。今月は、これまでの内容を振り返りながら災害に備えるための心構えを再確認したいと思います。

事前復興による備え

◆教訓から学ぶ

自然災害への対策は大きく分けて「予防」「応急」「復旧」「復興」の4つがあり、その役割は自助(住民や民間事業者が7割、共助(地域)が2割、公助(自治体)が1割と言われています。

災害の規模が大きくなるほど復興に要する時間は長期化し、長年住み慣れた土地を離れ、新たな地での生活を余儀なくされたり、地場産業の衰退や被災者の貧困化、限界集落消滅集落の増加などが起こります。そこで、過去の災害の教訓をもとにした事前復興対策をとることで、被害の減災や復旧・復興を早期に開始することができる基盤をつくることができます。

◆教訓から学ぶ

「高き住居は見孫の和楽 想へ惨禍の大津浪」此処より下に家を建てるな。これは岩手県宮古市の姉吉地区にある石碑に書かれている言葉です。東日本大震災で津波にのみ込まれた宮古市で、石碑の警告を守り高地で住むこの地区では、全家庭(12世帯約40人)が被害を免れています。

一方、幾度も津波の被害を受けていることから日本にある「万里の長城」とまで言われた防潮堤(総延長2.5km、高さ10m)を造った岩手県下閉伊郡田老町。東日本大震災ではその防潮堤を乗り越える津波が発生し、多大な被害がでました。被害が大きくなった

要因の一つとして、「防潮堤で津波を止められる」という過信があったのではないかと言われています。

◆香南市は防災教育の学校たれ

事前復興の観点から市が現在実施・検討を行っているのが、津波避難タワーの建設や避難路整備、高台移転や立地換地などです。それに加え大事なものは、日頃から自ら考え行動できる防災意識の高さと防災力(被害を予防する力、被害を避ける力、被害に耐える力、被害から復興する力)です。スポーツにおいて練習以上の結果は出ないように経験していることは行動に移せません。防災訓練にも積極的に参加しましょう。

被害想定をもとに、復興の課題と復興で目指す香南市を事前に考え対策を講じておく。復興にはスピードが不可欠です。災害に立ち向かえる香南市を目指し、これからも情報提供や啓発に努めていきます。

おすすめの1冊

知らない恥をかく
世界の大問題4



池上 彰/著

本書がシリーズの第4弾。計120万部の大ヒット作。領土問題・環境・核兵器・食料・エネルギー・経済・格差と貧困などを分かりやすく解説。

10月9日(水)には、香南いきいきセミナーの講師として本市に来られますので、お楽しみに!

ただ今、禁煙実施中—!

1日40本を20年以上。そんな生活に別れを告げるべく、お薬の力を借りながら頑張っております。

まず1週目...吸いたい気持ちを我慢しつつ本数を半分以下に削減。2週目...1週目より心持ち削減。3週目...1日2~3本までに削減。そして病院へ。「急に止めるとストレスになるから、ゆっくりでいい」とアドバイスをもらい、3週目の状態を現在も続行中。完全禁煙をしなくてはと思いつつ、気分を変えたいときや頭の中を整理したいときには、タバコを手にはべらなへ。あせらず、頑張ります。

豊かな「地下水」を育む

雨が降ると、
山は雨水を涵養し、
地下水をつくる。
湧き出てきた地下水は、
川となり、
海に流れ出る。
そして海水が蒸発して
雨雲となる。
地下水は
私たちの暮らしに
なくてはならない
ものだから、

地下水涵養事業へご協力ください。

市の水道水のほとんどが地下水を利用しています。その地下水は、市民生活はもとより、農業、工業など地域経済を支え、豊かな自然環境を育んでいます。

しかし、地下水の源となる山の保水力は、林業の低迷や生活環境の変化、シカによる食害などさまざまな理由から低下しています。また、都市化に伴い農地などが減ること、雨水が地下に浸透しにくくなっています。

「地下水涵養」とは、水分が地中へ浸透しやすい環境を作り出し、豊かな地下水を育てようとする取り組みです。

1反当たり3万円で 地下水涵養事業の 受託者を募集しています

地下水涵養のため、冬季の休耕田に水をためてもらえる農地を募集します。

- 募集面積 1,000アール
- 募集箇所(野市町、吉川町)
- ▼ 市道「コスイデン線」(青少年センター)から南(みどり野圃地)から南
- ▼ 市道野地中ノ村線(みどり野圃地)から南
- ▼ 吉川町全域

- ※ 深淵地区については、上段の地域※ 水張りして隣の作物などに影響のない平地の農地に限る
- 受託期間 11月1日(金)~26年2月28日(金)
- 受託料 10アール当たり30,000円
- ※ 田の面積については登記簿面積

- 作業内容
- ▼ 休耕田の耕地/1回
- ▼ 水の補給/3日に1回程度水が枯れないよう管理する
- 申込み締切り 9月30日(月)
- 申込み・問い合わせ 市役所企画課

57-85003